

放送人の会

No・39
2009・1・30

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階
Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com
代表幹事 今野勉 編集担当 伊藤雅浩、鈴木典之、松尾羊一

楽観は意思なり

代表幹事 今野 勉

明けましておめでとうございませうという挨拶が憚られるほどの大難の年を迎えたようです。

ことしこそ実現すると思われた日韓共同制作事業も、昨年の福岡大会以後に襲ってきた大不況の波をかぶって、その資金源が揺らいでいるという一報がすでに韓国から届いております。

ことしの私の会社の新年会の挨拶で私は、「楽観は意志なり」という言葉を披露しました。もちろん、大難を迎えるにあたっての心構えとしてです。

この言葉は、故人の萩元晴彦が、今野勉が言ったアフオリズム（箴言）、としてその著書に書き留めてくれていたもので、当の私は、そう言ったことをすっかり忘れていました。それから十数年経って、あらためてその言葉を使うことになったというわけです。

このアフオリズムの意味するところは、楽天的であろうとする意思と努力によつてはじめて未来が拓ける、ということなのです。新年会の数日

後の9日の毎日新聞の「余録」欄にフランスの哲学者アランの言葉が引用されていました。

「悲観主義は気分によるものであり、楽観主義は意思によるものである」

「希望は、これを保持するにも意思に頼るしかない。」

同じ日の夜9時のNHKのニュースの中で、インタビュウを受けた大江健三郎が、パレスチナ系アメリカ人で文芸評論家のエドワード・サイードの言葉を引用していました。

「意思の力によつて楽観主義を持つ」

大難はいつも存在してきたし、その都度人類はそれを克服してきたようです。というわけで、あらためて、明けましておめでとうございませう。



但馬牛矢野路 昔は牛の糞を肥してあげればよい 家に牛欄西後西 家は牛欄の音にあらぬのだから

第6回 人気番組メモリー 木島則夫モーニングショー

(昭和39年4月〜43年3月放送)

日時 2月11日(水・祝日)

午後1時半〜

場所 横浜情文ホール

ゲスト 井上加寿子(キャスター)

栗原玲児(キャスター)、

外崎宏司(プロデューサー)

司会 加賀美幸子(元NHK)

放送人の世界・人と作品

―村木良彦―

テレビにおける映像、キャンバスとしてのテレビ、さらに映像言語のメッセージ性を超える可能性を模索した現場人の航跡をしのぶ……

日時・3月14日(土) 11その1

3月21日(土) 11その2

場所・横浜 放送ライブラリー

ナビゲーター 今野 勉

上映作品(予定)

「わたしのツイギー」

「フーテン・ピロ」

「ブル・トウキョウ」

「わたしの火山」

「トリニティーの記憶」

(村木作品の公開は貴重です。この際ぜひとも、ご参集を)

2009年

年賀状・寒中見舞い

拾遺

秋田 完

今秋75歳になります。6年前から週に2日寺田倉庫で働いています。私の担当はテレビ番組のビデオテープの保管業務で、制作会社やテレビ局などが顧客です。

私が始めたのは映像アーカイブス化のお手伝いです。1時や4分の3時のテープを多数お預かりしていますが、再生機器は製造もメンテナンスも終了しています。このままでは死蔵となってしまいます。これらを倉庫内でデジタルテープやHDテープなどに交換する作業を安く安全に処理し、既に4千本受注しました。

しかしそれだけでは不十分で、テープに何が収録されているか、2次使用が可能かというメタデータが顧客に不足しています。世代交代が進み、制作したスタッフが在籍していないことが更に情報不足を加速させています。そこで、交換時に映像に含まれる放送日・出演者・スタッフなどをサムネイルに抽出し、文字情報を付することで検索可能にしました。変換でのテープの小型化、不要なテープの判明で保管料の削減が実現しました。

制作費削減が求められている昨今、映像資産の活用にお役に立てばと考えています。(元NHK・現ATP専務)

市岡康子

昨年3月、中国の名付け娘の結婚式に無錫に行きました。1982年制作の『私たちの現代中国』で誕生の瞬間を撮影したご縁で、名付け親になったのですが、その映子ちゃんが結婚する年齢になったのです。江南の伝統と現代の風潮が入り混じった興味深い式に中国の変化を強く感じました。また、大阪大学の大学院(人類学・社会学)の연구원と博士過程の院生が研究テーマに関連した映像を作りたいとのことで、時々指導に通っています。キューバから欧米に出国した若者たちの軌跡を追った作品など、山形映画祭を指そうという野心もあって楽しみです。

市川森一

日本脚本アーカイブスは、三段跳びにたとえるなら、ホップからステップの段階に移ってきました。

『脚本・台本は貴重な文化資産』

昨年は東大大学院情報学環とデジタルアーカイブスのシステム構築について「共同研究」をスタートさせる一方、引き続き東京都足立区の協力のもと脚本・台本の収集保存管理を行ってきました。本年は「社会還元」の調査研究を行うと共に「脚本展」などを実施し、脚本アーカイブス創設の意味や意義を広く社会に訴えていく所存です。今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。(放送作家協会理事)

伊藤 雅浩

今年もよろしくお願ひします。最近八王子市原爆被爆者の会の会長の仕事が忙しくなりました。市内の小

学校、中学校で被爆体験を語る「証言」

活動をやっていますが、先日その「証言」をやった小学校から小さなコンサートのお招きを受けました。

合唱組曲「ゾウ列車がやってきた」の前後に、子供たちがこの半年学んできた平和教育の体験・感想をかわるがわる立ち上がっては語るという構成です。「ゾウ列車」というのは、戦争中名古屋の動物園にいたゾウの物語です。動物園の動物は軍に「射殺しろ」と命令を受け、トラやライオンは射殺されたのですが、園長はゾウを殺すにしのびず、ゾウは餌不足にも耐え、生き延びます。戦後、日本には名古屋以外にはどこにもゾウはいませんでした。名古屋にゾウがいると知った全国の子供から「ゾウを見せてください」との手紙が殺到し、生き延びたゾウは貨物列車に乗って全国の子供たちに芸当を見せに行きます。その列車が「ゾウ列車」です。小学校の6年生全員(2クラス)の合唱で、声変わりして低音が歌える男の子が何人かいます。訓練されたいい合唱でした。小学校の音楽教育のレベルは非常に高くなったと感じました。

前後の語りの中には私が話した「証言」についても語られ、「戦争はいやだ」「原爆はいやだ」との子どもたちの声に私は感動しました。

このイベントに取り組みまえ、この学校の2クラスのうち1クラスは授業を邪魔するような生徒がいて学級崩壊寸前だったそうです。イベントに取り組みと別のクラスの子供たちがその崩壊寸前のクラスの子供たちを合唱の練習参加に誘い、いつの間にかクラスはすっかり元気な、よく勉強するクラスに甦った

そうです。

最近の学校は「ゆとり」をやめて、授業時間が増え、イベントをやるゆとりがなくなっているのですが、こんな話を聞くとイベントは大切だと思えます。

放送はこんな学校のことをもつと話題にしたいとおもいました。

浦田 彰

まずは、不熱心な会員としてお詫びを。社会から遁走して半年、早寝早起き、遅寝遅起き自由の身となって新しく友となったのがラジオ。とりわけ毎日付き合っただけの飽きないのがNHKの「ラジオ深夜便」です。いくつもあるコーナーの中でも私にとつてうれしいのは毎夜3時台のナツメロコーナー。流行らなかつた流行歌まで聴かせてくれるサービスに頭が下がります。それにもまして、私の耳を醒ましてくれるのが4時台の「このころの時代」。2夜連続の長尺インタビュー番組です。聞き役をとめる元職場の朋友たちの声を懐かしむ思いもありますが、出演する人物に魅了されます。ほとんどがメディアに登場したことのない市井の人物ですが、あるいは、その人生を彩った特異な体験を語り、あるいは、平凡に徹した非凡な一生を語る、といったオーソドックスな構成です。聴き終えて、良質な日本人はまだいるんだなあ、という充足した思いで夜明けを迎えるのが常です。

それにしても、ラジオの可能性を思います。例えば、すぐれた個性だけのダイアログ、テレビが忘れた方法論です。時流に流れず、時代の底に沈んでいる珠玉を掘り取る、ラジオの未来を確信します。

後藤 和晃

NHKを退職して10年目、4月から名古屋で2年目の日韓交流史を学ぶ息の長い講座を立ち上げます。月に1度ずつ座講をしながら、年に2回は韓半島(高句麗の領域だった旧満州も含め)への歴史紀行を行う予定です。講師には日韓の一流の歴史学者や考古学者も参加して貰いますが、ほとんどPRもしないうちに40人も受講生が集まりました。

この講座の開設に至った原点は1988年にNHK奈良放送部長として関わった奈良シルクロード博覧会にあります。この時、シルクロードが運んできた仏教などの先進文化は中国で受容された後、朝鮮でさらに咀嚼され、それが日本に流入して古代日本文化が成立したことを学んだのです。

以来21年間、日韓交流史の真実を知りたいと古代から現代に至るまでの交流史の現場を訪ねる旅を重ねてきました。一方では11年前に名古屋で純粋な市民レベルの交流を行う団体(120人)も発足させ学生交流団の交換も行っています。

今後は会員ともども2千年の交流史をしつかりと学びながら、未来指向的な人間関係を市民レベルで、さらに築いていきたいと考えています。

小南 武朗

昨今のテレビドラマを見てみると、CMの挿入が随分煩くなった。1時間ドラマに何回挿入されるものか。昭和30年頃のドラマへ入るCMといえは、最初と最後の2回だけだった。作る側も、提供する側もそれが常識だった。

映画や、舞台の進行に、途中お知らせ

が入ることがあるだろうか。

当たり前のことだが、ドラマは流れて行くものだ。そこにテンポやリズムが生まれて、作品が誕生する。ひとつの世界が生まれる。

民放の編成権とはなんであるのか。すでに編成権は消滅し、そこにあるのは、営業編成権に見える。売るのは大いに結構。売らねばならぬ。だからと言って、なにもかも売っていいものだろうか。CMの質が問われることだろうが、例えば、CMに出てくる俳優が、流れているドラマの俳優と同じ場合、視聴者にはイメージするものか。

ドラマの視聴率をとにかく言う前に、この事情から脱け出さねばならぬ。民放の課題ではないか。(元北海道放送)

斉藤 秀夫

カメラマンOBで立ち上げた映像制作会社「映像工房隼」と早稲田、相模女子大で若い映像制作者の育成を楽しんでいる。雑誌「ビデオα」にNHK撮影部時代に培った体験を執筆後、古い教員免許の埃を払いながらの毎日である。早稲田川口芸術学校では、毎年地域や学生映像コンクールで入賞する優れた作品を生み出し、開校6周年を迎えた。3月卒業の学生達も試行錯誤で一人ひとりがドキュメンタリー制作に取り組んでいる。

戦争中、広島県大久野島には毒ガス量産工場があり、元従業員は今もその後遺症で悩まされている。加害者でもあり被害者でもある葛藤を描いた『伝える』。東北の絵馬伝統を描いた『ムサカリ絵馬』。現代麻雀事情を描いた『女流麻雀士への道』などの意欲作を制作中である。

作品上映は1月23日〜25日 早稲田大学小野記念講堂。3月18日 早稲田松竹。先輩諸氏のご助言を乞う。(現NHK)

桜井 元雄

NHKの番組に圧力を加えたか?と問われた中川昭一氏は「そう思うのなら徹底的に抵抗すればよい」と答えたそうだ。その通りだと思う。自分の気に入らない言論を封殺するのは政治家の「仕事」のうちだ。洋の東西、体制の如何を問わずだ。それにNHKを含めメディア内部にも政治家の意をたいして行動したり、政治家の権力をバックに組織内での「出世」を図る者が大勢いる。島元会長はその代表格だった。プチ島は今でも暗躍している。政治家は仕事をやめないし、プチ島に自浄作用を期待してもムダである。政治介入を排する法律や制度も机上案を出ることはまず無い。最も説得力のあるのは中川氏の提言する抵抗である。ただし抵抗が功を奏する為には国民世論の広範な支持が不可欠だ。

年頭に当たって、メディアと国民の信頼関係に不安を抱きつつ、こんな当たり前のことを再確認し、併せて自分を戒めた。(元NHK、大正大学教授)

佐々木 彰

年初の挨拶で必ず始まるのが、現況の深刻な経済事情。『我が社は創立以来の難局』『うちの業界は未曾有の危機』。厳しさ比べの様相を呈している。この状況を解説するのに、過去の経済法則の大変換だけではなく、精神的価値観の大転換を語る人も多い。終戦直後の社会変革に匹敵する、明治維新以来の社会変換、と喧々諤々議論高揚である。

でも、庶民にとってはそんな時局解説は関係なし。亭主の給料が減り、女房のパート先が無くなり、子供の教育費が高くなつては、家計が破綻する。崩壊寸前の我が家を守るのに誰もが一生命である。だから、少しでも安いもの得なものに関心が向く。新聞のラテ欄には、『お得』『得な』の言葉が飛び交う。生き残る為の生活情報が大切。それでも、景気は、いつか戻るかもしれない。が、この(大変換)を体験した人々は、どのように変わるのだろうか。

そんな時代だからこそ、日常を平凡に生きようとしている、人と人との関係を、じっくりと、深く優しく見詰めるドラマを見たかと思っている。(テレビ東京 取締役)

重延 浩

今年は、早く新しい年を迎えたかと思う人も多かったのではないでしようか。ただ進歩することに逡巡する同年代も多くなりました。人間の英知がそれを制御できるか心配な政治・経済・科学です。

ストア学派に学んだ紀元1世紀のセネカは、こんな言葉を残しています。

「人生に関する事柄は、多数の者に人気があるほうが善いというふうにはならない。われわれが知ろうとするのは、一体何を行うのが最善であるかということである」。そして、「私は運命の贈り物を活用せんとするが、その奴隷にならうとしない」。古代の理念に学びます。

田澤 正稔

裸木の梢の空のほの紅み
新年の空を万太郎調で詠んでみまし

た。

大和定次

田原茂行
刈るより振るより播いている
(種田山頭火句集より)

昨年は皆様のご支援と大空社のご尽力で「全国テレビドキュメンタリー資料編」3巻と「全国テレビドキュメンタリー08年」版を世に出すことができました。

賀正
中沢忠正

多少の仕事らしきものからすべて解放されましたが(身辺整理は古稀をもって踏ん切りをつけた次第でしたが)耕すべき畑がないのでつつい晴耕雨読。何かほかに…と探索中です。

初空やあつけらんに一を足す

村上雅通

村木良彦さん、筑紫哲也さん、私の番組作りを支えてくださった方が黄泉の世界に旅立たれ、私の心にポツカリ穴があいたようです。お二人からは、様々なことを教わりましたが、共通していたのはテレビの限らない可能性でした。制作環境が年々悪化する中、自分出来ることは何なのか、自問する毎日です。2月11日(建国記念日)に私がプロデュースした番組『民教協スペシャル 月が出たでた』お月さんたちの炭坑節』が放送されます。よろしければご覧くださいませよう。

慈光芳春

山泉昭彦

放送とは文明なのか、文化なのか。文明なら滅びますネ。

吉村直樹
残りの少ないのですが、ラジオ大阪に勤務しています。
お聞きしたいのですが、放送人の会ではラジオに関係された方は何人くらいおられるでしょうか。
といいますのは、最近の広告収入の落ち込みほどのメディアも影響を受けていますが、特にラジオの落ち込みはひどく、民放ラジオの経営を圧迫しています。ラテ兼営局ではラジオはお荷物扱いにされています。

原因としては高層ハードな建物などが増加して難聴地域が増えている。若い人がラジオを聞かなくなっている、(ラジオの存在さえ知らない子どもが増えている)、などがあると思います。このままではラジオは日本では消滅メディアになりかねないという危惧を感じています。

長年、ラジオの仕事をしてきた者としては残念です。ラジオは他のメディアにない特性と魅力を十分持っていると思っています。

放送人の会のメンバーの方でラジオの活性化に関心をお持ちの方があればご紹介ください。

第8回放送人グランプリ2009ノミネートについて

放送人グランプリ事務局長 堀川とんこう

放送人グランプリは「放送人が選ぶ放送人の賞」です。故村木良彦氏が中心となって2002年に第1回の贈賞が行われ、今年第8回を迎えることになりました。

会の内外や地域を問わず、番組制作・報道、研究調査・評論など、放送文化に関わる分野の活動で、放送メディアの活性化にもっとも顕著に貢献したと思われる個人またはグループにグランプリ(大賞)が送られます。ほかに、刺激的な活動で放送界に新風を吹き込んだ人、特に必要と認められた場合に奨励賞・特別賞が贈られることになっています。

主として2008年4月から2009年3月までの活動について、放送人の会会員の投票により、集計後、選考委員諸氏による選考が行われます。

- 1、会員の皆様は、別紙投票用紙により、グランプリ候補とその推薦理由、ほかに贈賞したい人(またはグループ)を投票してください。
- 2、締め切りは **2009年3月31日必着**。放送人の会事務局あてFAX、またはメールか郵送でお送りください。
- 3、ノミネートに参加できるのは放送人の会会員に限りませんが、賞の対象者は会員に限りません。出身母体やジャンルにこだわらず広い視点でお考えください。
- 4、4月上旬に選考委員会内定、同下旬に幹事会承認、5月16日(土)に放送人の会総会と一緒に贈賞式(NHK青山荘)を行う予定です。

以上

『放送の緊迫』を語り合う『小さな集い』の近況

世話人・石井清司

放送を支える経営と制作の土壌は、自民党が日ごとに反動性を増すに従い、表現への締めつけと政治的圧力が陰に陽に、小まめに加えられている。認可行政、放送法改正等の立法のほかにより経営側の政治への従属を強いている様相である。それはNHKのムスタンやらせ事件や椿発言事件の機会を巧みに捉え、世論の放送局批判の盛り上がりやテレビ離れに乗ずる形で進められ、あるあるねつ造事件で更に勢いづいた。この一貫した流れは小泉内閣がひとつの節目だったが、狙いは変わっていない。制作現場の萎縮や自立性の目に見えない後退となって制作者の内面を侵蝕している。派遣業務への切り替えがそれを加速させた。NHK経営委員会人選の不透明さとビジネス志向の導入も運動したものである。

この、分かりにくい、しかし文化としての放送の生命線に関わる事象を、放送を支える視聴者にも手に取るように知っておいてもらいたい。それには放送に関わるわれわれとその周辺が見えていく必要がある。この「小さな集い」の意図するところだ。

幸いこの意図に斯界の有力な識者の方々が協力してくれている。11月22日の専修大学文学部准教授山田健太氏（BPO委員）の「政府は放送への管理をどう強めようとしているか」で9回目となった。

この稿で強調したいのは、6月28日（土）に、「NHK・E TV改編事件」の原告弁護士長飯田正剛氏に話しに来てもらえたことである。特に報道、ドキュメンタリーでは制作者のからめ手へ、放映を好まない反動政治家の手が及んでくることがある。局は組織防衛を優先し、制作者を切り捨てる場合がある。制作者の更なる注意力が求められるゆえんだ。女性国際戦犯法廷」を扱った作品をめぐる争いでは、最高裁は取材を受け、作品の改編に不満を表明した原告「バウネット・ジャパン」を敗訴させた。

この出来事は、放送の原点を今考えるのによいケーススタディーだと思った。演出絶対の考え方に、原告は取材される側にも「期待権」のあることを示し、議論の幅を深めたことの意味は少なくない。取材者・被取材者間に信頼の共有という「特段の理由があった」にせよ、である。放送も進歩する。飯田弁護士長の純粹理論は傾聴に値し、放送側も居ずまいを正すいい機会になった。「小さな集い」の役どころも、そんなところだろう、と思つた。

通例の「小さな集い」開催の合間に、「番外編」として、テレビ作品の名手たちを番組放映を機に招き、制作の内幕と制作者の生きざま、本音を聞く機会を時々持った。作品論というよりは、ながいつきあいの安心が醸す人生讃歌や創作秘録といったものだった。1人目が清

張の「点と線」をついにテレビ大作化にこぎつけた石橋冠氏で、汗のしたたりをふりそそぐような熱いものだった。ついで「風林火山」をやりおかせた若泉久朗氏で、余熱を引きずるマラソンゴール後のアスリートのようだった。3人目が「利家とまつ」ほか脂ののっている脚本家竹山洋氏。膝つき合わせての気迫に、肌が近すぎて焼かれるほどで、ときめく作家魂に触れる好機だった。自死した好敵手、脚本家の野沢尚の無いことを思つた。

年の瀬もつまって番外編、4回目は、亡き村木良彦氏をゲストになぞらえ、彼の制作者としての原点を探りつつ、人間像ににじり寄ってみようという試みだった。「ハノイ・田英夫氏の証言」の第1回目、村木氏がADをやったDVDを見ながら、実証的にハノイとベトナム戦を検証してみた。是枝氏がまとめた、村木氏に迫るTBS 90分映像も参考にしたら。とはいえ、つらさのつる集いとなつた。

片島紀男氏を悼む

放送人の会会員の片島紀男氏が昨年12月24日、食道ガンで逝去された。68歳。「放送人の証言」で記録することを約束してわずか2週間後のことであった。

片島氏はNHKのディレクターとして、NHK特集「二つの祖国」「命もえつきる時・作家壇一雄の最期」、NHKスペシャル「秘録高松宮日記の昭和史」やE TV特集「埴谷雄高独白「死霊」の世界」「昭和史の謎・検証三鷹事件」などスケールの大きい昭和史とその謎に迫るドキュメンタリーを次々と制作した。他の追隨を許さない独特の風格をもつ大作であった。

氏はNHKに入局して14年間、佐賀放送局で番組をつくりつづけることになった。反戦派のリーダーとして警戒されていたからである。そうした逆境に屈することなく、40歳を過ぎて東京に転勤してからそれまでに蓄積してきたエネルギーを全て番組に投じた。

私は同じ安保世代の人間として、溢れんばかりの共感を氏に抱いてきた。

その徹底したストイシズム。愚直とも思える圧倒的な誠実さ。そこから出てくる近寄りたがたい孤高。そして人なつっこそうな表情の中のなんともいえないさびしさがたまらなかつた。

記録する時が遅すぎたことが悔やまれてならない。

著書も多い。「三鷹事件」「悲しい火だるま・評伝三好十郎」「ゾルゲ事件・ヴェリッチの妻・淑子」など、力作ぞろいである。最後の著書は「トロッキーの挽歌」であった。（秋野靖乃 記）

『緊迫』の小さな集い 第10回

2月21日（土）

桂敬一「テレビはどうしてダメになったか」

番外編 第5回

3月7日（土）

鶴橋康夫「交番親三代『警官の血』（テレビ朝日・5時間）を創り終えて」

ともに午後2時から。

テレビマンユニオン会議室

名作の舞台裏 第22回

「家政婦は見た！」

日時・08年11月8日(土)

午後1時半〜4時半

場所・横浜情文ホール

ゲスト・市原悦子(出演)、

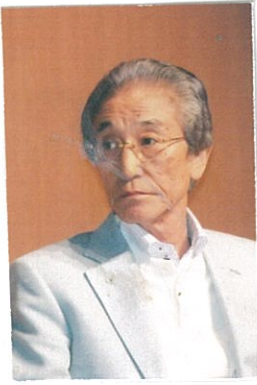
野村昭子(出演)、

柳田博美(制作・大映テレビ)

司会・堀川とんこう(放送人の会)

市原悦子の「家政婦」の人気はすごい。今回の入場希望者は1100を越えた。その中から選ばれたファンのほとんどは「家政婦」の中に自分の分身を見た中高年女性である。綾小路きみまろの毒舌をもはね返す彼女たちのパワーはこの日情文ホールにむんむんとあふれていた。

上映はシリーズの第1作。財務省(放送された時点では架空の省庁名だったが、現在は現実存在する省になってしまった)の次期事務次官と目されるエリート官僚の家庭を舞台に、家庭内暴力、不倫の物語が繰り広げられる。



柳田博美氏

柳田博美「原作は松本清張の『熱い空気』です。どうしてもやりたい、とテレビ朝日に提案したのですが、サスペンスはあるが、殺しがない、ダメだ、と却下されました。諦めず粘りに粘って、2年目に

とうとう粘り勝ちしました。放送してみると視聴率は30・9%。大成功で、テレビ朝日はすぐ続編を作れ、と言いました。原作に続編はありません。清張さんのところへ行ったら相談すると、『わかった。ドラマの設定はあげる。清張の名前は出さず、後は勝手にやってくれ』という返事です。以後監督富本壮吉、脚本柴英三郎で、清張の名前はあります。1年1作で最終回まで26作品。原作料を払っていたら億を超えたでしょう。」

市原悦子が演じる石原秋子は原作ではの子、覗くといういやなことする人物として、暗い不幸な女に設定されている。一度は家庭を築こうとして失敗し、恨みつらみ、ねたみ、あなたたちが不幸になればいいという気持ちを持って、他人の家庭へ入って行く家政婦である。



市原悦子さん

市原悦子「夫も子どももなくした色気もない淋しい女ですよ。風邪をひいて休むと1日6、800円のお金が貰えない。毎日元気で汗を流して働く女です。監督には『働け、働け』と言われ、洗い物をしたり、床をふいたりしました。監督には『健康な人間は好奇心が強い。エリートにだまされて怒るのは健康だ。怒りを伝えなくちゃいけない』と言われました。覗くということにひきめはありました。見るんだ!と思ってやっていました。視聴者の方には応援されたんですよ。

『もつと意地悪をやって』と何度も言われました」

第1作の家庭内暴力は少年ではなく、実はエリート官僚がやっていたのをかばうため少年が自分がやっていたように装うというドラマだ。秋子はこの少年と親しくなるが、不倫を暴いてこの家庭を崩壊させたあと少年に手ひどいあだ討ちをされる。



堀川とんこう氏

堀川とんこう「あちら側とこちら側、こちら側の庶民がこちら側を覗く。庶民の代わりに市原さんが覗くという格差社会の構造ですが、この時代の方がこちら側へたやすく入って行けた。あちら側が高いほどドラマは作り易い。あのあだ討ちも毎回ありましたね。」

柳田「あのしつぺ返しには毎回苦労しました。清張さんの原作にもありますが、無遠慮に人の不幸を喜ぶ秋子が罰を受ける」とほつとするのですね」

秋子が覗いてきたあちら側を根掘り葉掘り聞こうとする庶民代表が家政婦紹介所の所長を演ずる野村昭子さんだ。野村「プロの家政婦の仕事をしながら『見る、聞く』は実は難しい。そこを悦ちゃん自然に見て、聞いてくるから、私は『それで…』と乗り出して聞きたくなるのね。本人が聞きたいのか、聞きたい演技をしているのかわからなくなつてアドリブだらけで演じている。怪優、怪演と言われる所以である。



野村昭子さん

秋子をはるみと名付けた猫を飼っている。都はるみが好きだから、という設定で、勿論市原悦子をはるみの大ファンである。

市原「あるとき旅館で宴会をしてね、私はあまり気がすまなかったのに今日はどうしてもはるみの歌を歌えつてみんなが言うの、どうも様子がおかしかったんだけど歌ってたら、私には秘密でホンモノの都はるみを呼んでいたのね。あれはほんとに驚いた。」

観客との質疑応答の最後に野村さんは「私はいま80歳です」と言って観客を驚かせ、市原さんは「私は若くはありません。足腰はもうぼろぼろです」と言って観客に「元気をだしてください」と励まされていた。

最後に市原悦子は「ごめんくださいませ!大沢家政婦紹介所から参りました。ごめんくださいませ!」の決め台詞を大声で言つて会を締めくくり、観客の大拍手を浴びた。「家政婦」シリーズは終わったが、名優の今後の長い活躍を祈りたい。(伊藤雅浩 記)



盛況の会場

11月19日(水)・幕張メッセ国際会議場・「放送人の会」パネルディスカッション
「新たなメディアの“風”の可能性と変化」

ネット時代、「放送」はシーラカンスとなるのか？

パネリスト

風間 正 (映像作家・明星大教授)

木谷友亮 (WEBデザイナー)

やまだ紫 (漫画家・京都精華大学教授)

前川英樹 (TBSメディア総合研究所)

相談役)

司会

今野 勉 (放送人の会・代表幹事)

テレビを古代魚シーラカンスに譬えた刺激的なタイトルのせいか、会場の入りはまあまあ。パネリストのユニークな人選からすれば、実はもっと期待されていた筈なのだが：

司会・今野氏が、「今のテレビはつまらない。仲間うちの話もブログばかりだ」と書いた高校生の朝日「声」欄投稿記事から問題提起。



やまだ紫さん

最初の発言者やまだ紫氏は、団塊世代のヘビー視聴者の立場から、「孤独な創作作業の中でテレビを友としているが、近頃は創造性が乏しく低俗化が目に見える」と、マンガ詩人の感性を率直に披露し、「制作者の狙いは、老若いずれのタ

ーゲットからもズレている」と批判。



風間 正氏

風間氏は、多彩な映像実験を踏まえて、「情報過多で自分を見失う」情報負荷社会「化」の中で、テレビは話題を共有するための中心に回帰すべきではないか」と「情報」信仰にかまけた無自覚な現状を叱る。



木谷友亮氏

木谷氏は、WEBの発展性を例示しつつ、「WEBは素人の自由な表現領域。類似性は多いが、テレビはプロの規律の

中のおもてなし競争」と、謙虚な並走の役割論を述べる。

最後に前川氏は(「テレビ原人の逆襲」を主張する筈だった大山勝美氏の代役の立場から)「テレビ」現人」とし、テレビの力学的機能を詳しく分析した上で、「表現者は常に不安定性が前提となるが、テレビは今後もインターネットと入れ子構造」となって成長すると力説、テレビ「シーラカンス」論にNO!の熱弁を振るった。



前川英樹氏

自由討論でも有益な情報が交換され、聴衆を引きつけたが、傍聴記の要約としては、

「情報過多の負荷で創造性は」模倣」か自分史かに引き裂かれがちだが、若いも若きもメディアに求める方向性に違いはない。それを汲み、テレビがどう進化し深化できるか。それが時代の課題でもある」とでもいえようか。

刺激と予見に満ちた熱いディスカッションであった。(鈴木典之 記)



今野勉氏

3丁目のドキュメンタリー

日時 3月28日(土) 午後1時半
場所 横浜 放送ライブラリー

(定員 100名)

ナビゲーター 桜井 均(会員)

テレビがはじめて家にやってきた頃は、高い建物もなく夕陽が家の中まで差し込んでいた、というのが動かしがたく鮮烈な国民的風景。テレビは、遠くの世界を茶の間に届ける窓であった。

テレビ・ドキュメンタリーの草分け『日本の素顔』(57年11月〜64年4月)と『ある人生』(64年11月〜71年3月)は、いまや時代を映す「鏡」である。

たとえば、57年のキワードは「南極」「ジラード事件」「岸内閣」「砂川事件」「東海村・原子の火」「カップ・ロケット」「スポーツニク」「長嶋巨人へ」

ちなみに、安保闘争(60)、風流夢譚事件(61)、キューバ危機(62)吉展ちゃん事件・ケネディー暗殺(63)、東京オリンピック(64)、ベトナム北爆開始(65)、日本総人口1億人(66)、公害対策基本法(67)、5月革命・3億円事件(68)、安田講堂(69)、万博(70)…。記憶のアーカイブスを紐解いて、半世紀前の「現在」を鑑賞する企画です。

第十一回放送人句会

◇平成二十年十二月十日(水)◇於：表屋

◇出席：伊藤視郎、荻野慶人、豊田まつり、新村もと

を、橋本きよし、松尾馬笑、山県ぼん太、西川阿舟

◇兼題：北風、鴨、企画

北風や赤いネオンは眠りどき 馬笑 (◎視)
 夫婦かもとはず馴染みて鴨せいろう まつり (◎慶)
 北風に向い花束匂いけり 視郎 (◎ま、も、ぼ)
 オリオンの三ツ星著く北風つる 阿舟 (◎も、◎馬)
 翔び立つと今輝ける離れ鴨 ぼん太 (◎き)
 三河湾飛び来て鴨の撃たれたる 視郎 (◎ぼ、慶、き、馬)
 北風に逆らひ渡船出発す もとを (◎舟、慶、ぼ)
 今年最後河豚喰ふ会の大企画 もとを (視、ま)
 北風のなか風音が心音か まつり (視、慶)
 北風や煮凝り魚灯の下に きよし (視)
 悶々の企画会議に窓の雪 馬笑 (視、ま、舟)
 藪多き老舗鴨鍋湖暮るる もとを (視、き)
 かわいいと群れる子鴨のおとなびて 馬笑 (慶)
 旅企画つづれ師走の孤独かな 視郎 (慶人、馬笑、)
 北風に微動もせず立つピエロ きよし (慶、も、ぼ)
 北風強き夜に捨てし故郷村 もとを (ま、舟)

凧や企画書きあげ友は辞め
 鴨の声夕べ湖北の村静か

馬笑 (ま、舟)
 ぼん太 (まり)

夕暮れて鈍色の空鴨獲らる

視郎 (ま、も、き)
 ぼん太 (も)

企画まだ誰からも出ず年詰まる

阿舟 (も、き)

プレゼン
 企画説明を終へて鱸酒ことのほか

まつり (も、ぼ)

北風の碧そのかみ自由都市

阿舟 (き、馬、ぼ)

軽鴨と真鴨それぞれ陣なせり

馬笑 (き)

一羽二羽五羽の先ゆく小鴨連れ

阿舟 (馬)

鴨鍋や政局批判止まりけり

もとを (馬)

ふるさとを忘れないでねメタボ鴨

阿舟 (ぼ)

企画書は未完のまゝや年忘

視郎 (舟)

企画書が通り部長と鴨の鍋

馬笑 (舟)

北風や訛り言葉の影二つ

慶人 (舟)

北風はビルの谷間で迷子かな

阿舟 (舟)

【選句者、視||視郎、慶||慶人、ま||まつり、も||もとを、ぼ||ぼん太、馬||馬笑、き||きよし、舟||阿舟】

次回放送人句会

平成21年2月18日(水)午後6時半

□ 於：表屋 (投句 Fax03-3556-0056)

□ 兼題：冴返る、若布、異動(春の季語を入れて)

句ころの有無にかかわらず

皆様のお越しを：ピギナース・ラックが

当句会のおもしろいところです(丑)



放送人の会・ホームページのパスワード変更

放送人の会のホームページの中に会員がパスワードを入ると読むこと、書き込むことができるBBS (プレティン・ボード・システム) のページがありますが、これまでユーザー名とパスワードの二つが覚えにくいのためかほとんど利用されていません。今回これを改め、ユーザー名、パスワードとも **hosojin** にし、**hosojin** だけを2カ所に入れればよいようにしました。悪質な書き込みは困りますが、非会員の方もお誘いして、ご自由にご利用ください。

会員の意見交換、その他の交流のためにと作られたのですが、もっと広く、番組やイベントの案内、作品の投稿など、メールを出すつもりで気軽に使ってください。質問や照会の取次ぎのお世話もするつもりです。変更は2月2日正午から。

公認サディスト? 理学療法士

元「放送文化」編集長 天野進平

☆「理学療法士」は一般になじみがない職業ですが、国語辞典には「医師の指導下でリハビリにあたる専門技術者」とか「理学療法にあたる専門技術者」などとチャンと出ています。いうならばリハビリのプロ。全国に5万4千人もいるそうで、私もかれこれ20年お世話になっていますが、なぜ「理学」とアタマについているのか、ご本人たちに聞いても未だにハッキリしない。

☆彼らのすること。私のような脳卒中マヒのリハビリでは、まずフロアに敷かれたマットの上に相撲の上手投げの要領で投げ飛ばされる。次いで転がされた状態から自力で膝立ちする動作を強制されます。個人差はありますが、約一カ月で膝立ちが可能になると、平行棒での立ち上がり、それにつかまっ

ての歩行訓練です。
この間がタイヘン。ころげ落ちると激しい罵声が飛び、またころげ、また罵声。私はこの訓練所をリハビリ牧場と名づけ、ここに放牧されてるのだと当初からあきらめ観念しましたが、それでも耐え難いのはこのプロたちの仕打ちと無教養さです。理学療法士協会によれば全国に320校あるそうですが、技術を叩き込まれるだけで教養や対人関係の基礎である共感性などを学ぶ時間はないらしい。きまり文句は「命令(というのです)した通りにやらないと死ぬまで歩けないぞ!」(死んだら歩けるといふのか)と脅かして、

「早く孫に会いたいだろ、ん?」と老女たちを叱咤し、尻を蹴飛ばす。同病とはいえ私は見ていられません。私は三流のモノ書きでプライドは高くありません。罵声を浴びても彼らを憐れむだけでヘッチャラでしたが、気位の高そうな社長風情の中には色をなし「地獄の道場」には二度と顔を見せない人が数名いました。ほかの高価な訓練所に移られたと聞きました。

☆この「地獄」を経て、町のケアセンターの世話になります。ここでも行政のやることは不思議です。20年も経って「要介護3」をいだけくと、有料の理学療法士を与えられるのです。どんな加療をされてもわが五体は半身マヒのまま、杖があっても単独歩行はできません。結果一日中ソファに埋まったままのマヒ人生なのです。

☆このところ「リハビリ難民」という言葉がメディアから流れてきます。5万もの免許人がいるのに、と不思議でなりません。いま、私のところに来てくれるプロは週2人。うち一人は26歳の女性です。はじめての日、ベッドでマッサージしてもらったとき、彼女はいいました。「脳卒中マヒは私が汗をかいても直せないのでよ」「わかってるよ」。彼女は私にこういいました「それじゃ私に何をしたいですか」。78歳はとっさに「愛して欲しい」と言う。「私、ゴメン、彼がいるのよ」などどステキな会話をしたこともある。「とにかく浄土からのお迎えの馬車に乗るのを手を助けてよ」

☆新宿の初台に「東京リハビリセンター」がある、友人が入院してるときいて介

護タクシーで車椅子のまま見舞いに行きました。広い廊下を忙しげに走っているのは「ごくせん」の仲間由紀江ちゃんふうのピンク・トレーナーの若い女性理学療法士ばかり。これじゃ治るものも治らない。

☆そうだ、と最後になって気がつき、辞書で「医学療法」を引いてみるとチャンと出ていました。「身体に障害がある人に対して治療体操、マッサージ、電気刺激、温熱などの物理的手法を用いて運動機能の回復を目的とした治療法の一。物理療法」(「大辞林」)。ナルホド、物理だから理学ナンダ。よくわかりましたが、どこにも怒鳴ったり脅迫したりするとはかいてないよな。

☆テレビで大島渚監督と小山明子さんの『奇跡の夫婦愛4000日』を見ましたが、彼のマヒ歴は私より長い。ロンドンで倒れ帰国し、以来室内と庭にはジムのようなりハビリ器具があり、30前後の若いトレーナー(理学療法士)が世話をしていた。さすがにあんまり元気そうには見えなかった。でもステキな理学療法でよかった。長嶋さんもまたテレビで顔を見せるが喋ってるシーンはない。個人差はありますが、骨肉がバラバラになるような荒療治は、末期高齢者にはむしろ「毒」です。妙薬は、優しい言葉と笑顔です。

(脚本家 要介護度3)

おしらせ: 会員村上雅通氏プロデュース(D井上佳子)で第23回民教協スペシャル『月が出たでた』お月さんたちの炭碓節(2月11日 前10:00, 10:50 テレビ朝日)が放送されます。戦後親しまれた炭碓節の裏にひそむ苦汗労働の痕跡を追及した労作です。

梅にも春の色添ひて、若水汲むか車井のオと、陰歴正月づくしはまず郡上八幡は老舗「おもだか屋」。「元日も暮れて、なかなか寝ないでる子供たちを祖母は宥めて床に入れ、ナカキヨノトオノネフリノミナメザメナミノリフネノオトノヨキカナと言ふ歌を美濃紙にそれはちひさな字で圓のかたちに書き、それで寶船を折って枕の下へ入れて呉れました」(水野たき女「奥美濃のころ」)。回文である。◆幸田文は元日の膳に座る父露伴の厳しい視線を感じ取り「私はその眼をからだ中に意識し、あたかも意地悪くあら捜しをされてるやうに感じ、薄着の寒さと緊張の極とで一ト足ごとにながたと顫へた」(「正月記」)◆江戸幕臣出の幸田家とちがひ音曲がなりわいの町っ子はノリのきいた緋の着物がごわごわして自分じゃないみたいで「それで、元日の膳に向かうのだから、ふだんいくら世話物(現代劇)の下町の子でも、元日はちよっと時代ものになつた」(安藤鶴夫「お正月」)◆「家に神々が宿り、日が落ちれば、雨戸を閉めるこしかたの正月は父が主役の三ヶ日であった。今日びでは父の口癖、軽口のたぐいはテレビが買って出、いりり端のじいさまの経験哲学もオヤジ殿の農耕技術論も陰が薄くなり、もっぱらジジババが内孫外孫に年玉だともね、にじり、はしゃぎ、血縁を金品で諮り確める日となっている。(M)

今回はラジオを経て、テレビ報道とドキュメンタリー関連の「証言」です。まず、田原茂行さん。田原さんは一九五四年ラジオ東京(現TBS)入社。社会部で「ラジオ・スケッチ」など録音構成番組を担当。五七年大分県警の囃り捜査による「菅生事件」の冤罪性から田原さんは鋭く謎を解き、「菅生事件の記録」などで翌年、第一回ジャーナリスト会議賞を受賞。直後にラジオ演劇部に異動、ラジオドラマに挑む。六〇年安保の決定的な夜を東山誠さんと共同演出したドキュメンタリードラマ「雨と血と花」(木下順二作)は右翼の抗議を受けました。六三年、テレビ編成企画部に移ります。強い権限でテレビ番組の開発を試みるため新設された部署でテレビ局編成主導の始まりといえます。「証言」では視聴率競争の善悪に触れ、「人間の条件」「ウルトラマン」などフィルム作品を導入しますが、TBS闘争(六八年)の影響で経営陣がナマ番組とドキュメンタリーの全廃を決定します。実施に踏み切った編成部員の苦悩と後悔が語られます。最近鈴木典之氏と共同編集の労作、年鑑「全国テレビドキュメンタリー」の刊行への情熱は当時の思いから生まれて来たと言います。

磯野恭子さんは五九年山口放送入社。アナウンサーを経て六二年ラジオの放送記者からテレビディレクターになります。七三年、六十前の冤罪の再審を求める老人の六度目の裁判をテーマにしたドキュメンタリー「開くか再審の道」で民放祭中・四国地区最優秀賞を受賞、ドキュメンタリー作者の道を歩きはじめます。磯野さんの「証言」は「徳山湾の水銀騒動」、七五年芸術祭大賞の「聞こえるよ、母さんの声が、原爆の子百合子」、回天基地を訪ねる「死者たちの遺言」、「生きて生きて十九年、カネミ油症事件」、戦争中宇部海底炭鉱の落盤事故で死んだ朝鮮人たちを悼む「海鳴りの歌」、中国残留婦人たちの帰国を描き、その後市民運動にまで発展した「祖国への遙かな旅」などの代表作を選び、その企画、制作プロセスにつき詳細な思いを語るのです。

「ところがけていることはですね、できるだけその主人公に寄り添いながら主人公の本物の声を拾うということですね。そして映像を日常の姿から作って行く。自然な形で、それも相手が嫌うことを撮るのじゃなくて、ええその、カメラがあるかないかという風な所でさりげなく撮って行くということですね」

金子鮎子さんは日本の女性カメラマン第一号です。五五年NHK入局しテレビ映画部で海外ニュースフィルムを担当しますが、自分で撮ってみたいくなり先輩カメラマンの取材に同行、撮影技術を習得します。五八年東京で開催されたアジアスポーツ大会で男子禁制の女子選手村を取材。同年、皇太子妃候補だった美智子皇后の取材では美智子さんの同級生の協力で友人を装い、テニスバッグにカメラを隠し、正田家

を訪問、日常姿の美智子さんの撮影に成功しライバル各社を驚かせます。カメラマンとして正式に内信部に所属したのは五九年、このころからテレビ各局とも東京オリンピック対策で女性カメラマンの養成を始めますが金子さんを悩ませたのは女子労働の問題でした。夜間労働やヘリコプター取材は禁止、海外取材も遠慮せざるを得ません。カメラマンは女性の仕事でなかった時代に、強くしなやかに仕事を続けた先駆者の貴重な「証言」です。

「粘らないと撮れないですからね。表情とかは前の動きを予測してから撮って行かないとうまく撮れない(中略)私はその人の動き、人の表情というものに関心がありました」

湯浅正次さんもカメラマンです。五三年読売映画社に入社、三原山噴火、連絡船洞爺丸遭難、革命直後のキューバを含む中南米五カ国取材などニュース映画カメラマンとして活躍、その後テレビドキュメンタリーに興味をもち、NHKに移ります。「日本の素顔」現代の記録などの取材に参加、六三年海外取材「アジア文明の源流」でカメラを担当、アラブ諸国の砂漠を取材します。「証言」は吉田直哉さんとの数々の仕事、特に柳田国男の文章を映像化した「速野物語をゆく」、ドキュメンタリー部門でイタリア賞受賞の羽田全日空機事件を扱った「謎の一瞬」、NHKスペシャル「皇居」などの制作の経緯をさまざまにエピソードを交えながら語り、フィルムカメラとビデオカメラの歴史、機能の違いと損得、カメラ技法論にまで及びます。

「ぼくはニュース出身でしょ。ニュースではシーンは一つだが、ドキュメンタリーや社会派のドキュメンタリー番組ってのもその延長線上にあってね、一つのシーンがいくつもあると、それだけのことであってね、だからニュースの手法でね、そのまま、ドキュメンタリー番組の撮影に入ったんだね」

最後は鈴木昭典さんです。弱電企業の技術者だった鈴木さんは五六年開局直前のOTV報道部に入社、ニュース番組のほか「日本の百人」現代の顔」といったインタビュー番組を担当します。五九年OTV分裂で朝日放送(ABC)に移りドキュメンタリー番組を志します。六一年、室戸台風の直撃を描いた「台風くる岬」で防潮堤外の町営住宅の台風前と後を撮影しますがそこには「時間を撮る」鈴木さんの方法論の萌芽がはいま見えます。六四年インドネシア残留日本兵を主題にした「ジャビンド」は芸術祭奨励賞を受賞します。鈴木さんはその後、このテーマを追い続け数本のドキュメンタリーを作るのです。素材は医学、文化人類学、昭和史とひろがり、スタジオドキュメンタリーの実験も試みます。鈴木さんの「証言」は実験と挑戦の気迫に満ちています。

「事実を撮ってるが機械的に写すだけではドキュメンタリーってのは出来ないわけです。作り手がどう切り取って何を伝えたいのかというところややっぱりドキュメンタリーという作品になって来ますよね。だからそれは、なんて言うか、表現の手段としてはあらゆるものがあるっていう風に思ってますね」

お願い! 放送人の証言も放送文化基金の助成金を得、いよいよ70年代、80年代の放送人の登場です。これはという放送人を推薦して下さい

「放送人の証言」代表 久野浩平

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 新井和子 有馬哲夫 石井彰 【い】石井清司 石井ふく子 石橋冠 磯野恭子
磯村健二 市岡康子 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 岩澤敏 【う】上田千秋 碓井広義 歌田勝彦 宇野昭 浦田彰
【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大野木直之 大原誠
大原れいこ 大山勝美 大類啓 大脇明 岡弘道 岡崎栄 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暎 萩野慶人
小田久榮門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 片島紀男 勝部領樹 加藤滋紀 加藤静夫 金沢敏子
兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 川平朝清 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 川竹和夫 河邑厚德 河村正一
【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村栄文 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 隈部紀生
【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉孝光 児玉久男 後藤和晃 小中陽太郎 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】斉藤伸久
斉藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 桜井元雄 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤秀山 佐藤利明
佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一 清水満 下重暎子 城菊子 【す】菅野高至 杉澤陽太郎
杉田成道 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章 【せ】せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高戸晨一
高橋一郎 高橋啓 滝大作 武谷雅博 田澤正稔 田中昭男 田中直人 田原英二 田原茂行 【ち】千葉勉 【つ】露木茂
鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暎子 戸田佳太 外崎宏司 富永卓二 豊田由紀子 土門正夫 【な】中崎清栄 中澤忠正
中島僚 中田美知子 中谷英世 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村芙美子 中山和記 難波秀哉
【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 丹羽美之 【の】野崎茂 信井文夫 【は】萩野靖乃 橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子
原田庸之助 【ひ】久野浩平 備前島文夫 【ふ】深町幸男 福田雅子 藤井深 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子
堀川とんこう 【ま】前川英樹 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本明 松本修 松本国昭 【み】三上義智 水上毅 水野憲一
三村景一 三村千鶴 宮川鏡一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】守分寿男 諸橋毅一
【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 大和定次 山根基世
【ゆ】湯浅和憲 【よ】横沢彪 横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 吉村光夫 【わ】和田智允 渡辺敏史

☆ 新会員紹介

・ 前川英樹

現TBSメディア総合研究所取締役、
相談役 『ヤング720』 『娘たちの
復讐〜日本国憲法殺人事件』 など。
著作 『反戦+テレビジョン』 (村木良
彦との共著 田畑書店)

・ 豊田由紀子

アクトーズ・カンパニー代表
劇団俳優小劇場を経て現職
俳号 まつり

◎ 新刊書紹介

年鑑

『08年 全国テレビキュメンタリー』

責任編集 田原茂行 鈴木典之

(6000円 大空社)

「07年度版」に続き「08年度」版。
07年度制作された全国のドキュメンタ
リー番組の紹介を軸に、読んで理解で
きる文体による番組構築を図り、コン
テンポラリーとして着地させている。
あわせて台本、各種コンクール受賞番
組紹介など、メディア関連の学部や学
生を意識した文献的資料的な役割に留
意している書。映像ドキュメンタリー
の文化的使命を継承するための必携の
書として推したい。



編集後記

車中でケータイに熱くなってる老若

男女。人類は今(親指時代)だそうだ。

◆しかしその昔は小指が活躍するアナ
ログ文化全盛時代「わたしはコレで会
社を辞めました」とあり、遊里では心
中立ての指切りとて障子襖を閉め、他
人無用で気付け、血止め、水呑、切っ
た指の包紙を用意、木枕の上で介錯人
がズブリ。さて敵娼、小指をさし出し
晴れて落籍の一件(『色道大鏡』より)

◆実際は女、模型の指を巧みに使い誑
かしたとか。似たようなドラマが『小
指の思い出』(脚本 野沢尚 演出 鶴

橋康夫 91年)手を切ると指を切ると
は大違いま、指切りゲンマンの壮絶

な愛の真意をヤクザと堅気を対比した
風刺ドラマ◆浅丘ルリ子が山城新伍と

別れ、小船に乗って去ってゆくラスト

シーンで伊東ゆかりのヒット曲が流れ

たのは言うまでもない。#「あなたが

噛んだ小指が痛い、きのうの夜の小指

が痛い」小指文化を象徴する艶やかな

ドラマで◆無論親指も黙っちゃいない

ドアを開けるとシミーズ姿が親指を立

てダメダメと首を振ると間男慌てて立

ち去る「向田ドラマ」もあつた◆しか

し、小指対親指のおお懐かしの昭和艶

史的時代は去りました。いまや親指ク

ンは「指きたす」ならオレだと五本、

いや10本文化の帝王として君臨するの

だがお前は昔はフィンガー・レスリン

グの他愛ないヤツだったのに、とじっ

と手を見る今日このごろ。(松)